



出雲医療看護専門学校  
学校長 橋本 勝信

令和3年度「卒業・課題研究発表会」は、昨年から新型コロナウイルス感染問題で、3密を避ける運営を念頭に委員会は準備されました。そのような状況の中で、出雲医療看護専門学校は、2013年（平成25年）の開校以来、創立9年目を迎え、学園・学校の「教育使命（Vision）」と「教育理念（Mission）」をモットーに、教育活動を実践してまいりました。今年度は、「令和3年度 卒業・課題研究発表会（テーマ：医療創生2021～変化への挑戦～）」を開催する運びとなりました。

出雲医療看護専門学校は、創立以来の卒業研究論文総数は、2020年度282件です。卒業年度を迎えた学生は、高校の勉強が「覚える（教わる）〈受け身〉」から、専門学校の勉強が「考える（自ら学ぶ）」ことを中心に変化したことに気付き（スタディ・スキル）を身につけました。

本校の卒業研究は、今年度に限り、在学中の教室での学習、実習室での学習方法、学外研修（病院研修）での学びを通じて、アカデミック・スキルズを身につけ、一つのテーマを追求し、深く考えていくプロセスを学びます。

これを機に、業界の科学技術、知識の変化に敏感に対応できるよう、頑張りましょう。

又、平素よりお世話になっております業界の方々、学校関係の先生方、保護者の皆様のご参加に、厚く御礼申し上げます。

学生の皆さんの発表が素晴らしいものであることを期待しています。

## プログラム

13:00 受付開始

13:30 開会宣言

13:45 優秀発表

15:10 来賓講演

15:25 学生挨拶

15:30 閉会宣言

会場 出雲市民会館

〒693-0023 島根県出雲市塩冶有原町2丁目15番地

電話: 0853-24-1212 FAX: 0853-21-7085

学校法人 大阪滋慶学園

出雲医療看護専門学校

〒693-0001

島根県出雲市今市町1151-1 電話: 0853-25-7034

令和  
3年度

## 卒業・課題研究発表会 ご案内

医療創生2021  
～変化への挑戦～

令和3年12月20日（月）  
出雲市民会館



学校法人 大阪滋慶学園

出雲医療看護専門学校

## 昨年度受賞研究

### 滋慶教育科学研究所 奨励賞

#### 『風船を用いた呼吸トレーニングが呼吸機能に与える影響の調査』

理学療法士学科  
和田百咲 川谷咲良 安達美紅 高橋泉

高齢者の呼吸器疾患の問題として誤嚥性肺炎が上位に挙げられ、予防のためには呼吸機能の維持・改善が必要となる。今回、安価で高齢者にもなじみのある風船での呼吸トレーニングの検討を行った。5日間のトレーニングではFVC・FEV1.0・FEV1.0 %・PEFR には有意差は認められなかった。しかし、風船での呼吸トレーニングを長期間実施することで、呼吸機能の改善につながる可能性があると考えた。

### 日刊工業新聞社賞

#### 『ECMOの遠心ポンプから発生するキャビテーションの検知及び防止に関する研究』

臨床工学技士学科  
伊藤恵吾 岡田大輝 森岡和也

新型コロナウイルス感染者のうち肺炎などの重症呼吸・循環不全患者に対してはECMO(Extracorporeal Membrane Oxygenation)が使用されている。先行研究では、キャビテーション発生初期状態を検知することが困難であった。本研究では、キャビテーション発生初期段階において客観的で定量的に検知することができる遠心ポンプの入口圧力や流量に着目し、キャビテーション発生を回避できる入口圧力や循環流量の範囲を把握することを目的とし研究を行った。

### 出雲市学術奨励賞

#### 『新型コロナウイルス感染対策前後の授業における言葉の聞き取りやすさについて』

言語聴覚士学科  
吾郷未来 大谷菜葉 緒方彩音 武田莉子 多々納杏奈

新型コロナウイルスの感染対策のため、マスクを着用し、ソーシャルディスタンスをとり、換気のために窓を開けるなど、密集・密接・密閉を避けることが求められている。それらの感染対策により授業中に講師や友人の発言を聞き取りづらくなるが多々あると感じる。そこで、マスク着用・ソーシャルディスタンスをとること・密閉を避けるための換気が授業時の聞き取りにどう影響を与えているのか調査し、その対策について明らかにする。

### 審査員特別賞

#### 『看護専門学校の社会人学生が就学上抱える困難と対処法』

看護学科  
平田愛 吾郷千佳子 竹下三絵 中谷日菜

近年、全国的に看護学校への社会人入学者が増え、今後も増加が見込まれている。社会人学生の特徴として、学習に対するモチベーションが高いという一方で、身体的な限界や、時間的な余裕のなさから、学習への取り組みがままならない状況があると報告されている。そこで社会人学生の就学上の困難と対処法を明らかにすることで、今後社会人学生が学びやすい学習方法について研究した。

## 優秀発表演題

### 乾性温罨法と湿性温罨法の温熱刺激による保温と保湿効果の比較

看護学科

高見 愛, 川上 聖美, 加田 見記, 森本 佳澄, 宇治田 拓美,  
佐藤 遼也, 黒崎 巧, 有藤 豪作, 藤原 大賀, 西田 奈於斗

温罨法とは、体の一部に温熱刺激を与え、血管・筋肉・神経系に作用させる治療法で、患者の安楽を図るための看護技術である。温罨法の温熱刺激による保温と保湿の効果を明らかにすることで、看護学生が行う基礎看護援助技術の向上につながる考えた。また簡易的方法で保温と保湿の効果が得られる援助を検討することは、有用であると考え検証した。

### 大学テニス選手の障害実態調査

理学療法士学科  
板倉 良太郎, 小田 文博, 嘉本 遼河

近年、スポーツ現場において理学療法士の関わりが多くなってきている。林沢らは、スポーツ障害はどの競技においても一定数存在し、また高校バスケットボール選手は「県大会レベル選手の方が全国レベルの選手よりも怪我のために競技力発揮に支障をきたしている」と報告している。本研究では、大学テニス選手を対象とした競技レベルと怪我による影響について調査を行った。

### シャント血管における穿刺シミュレータの開発

臨床工学技士学科  
足立 史龍, 今岡 和嗣, 宮本 杏耶

医療従事者が穿刺の練習を行う際にシミュレータを用いることがある。医療用の製品は高価であり、また、透析用のものは市販されていないため、本研究では、安価な材料でシャント血管及び皮膚を模した練習キットを試作した。皮膚にはコルク粘土やシリコン、血管にはラテックスや天然ゴムなどの材料を用いた。試作品の触り心地や刺し心地が実際の皮膚や血管と似ているかどうかを評価し、練習用として採用可能かどうか検討した。

### 嚥下調整食のとりみの簡易的な判別方法について

言語聴覚士学科  
鳥羽 朱, 石原 里菜, 兼重 沙弥奈, 永瀬 未空, 林 陸準

本研究では、在宅の嚥下障害の方を対象として、市販の嚥下調整食のとりみ付き液体を学会分類と同様に3段階（薄い、中間、濃い）に分ける手軽で簡易な手法を提案することを目的としている。実験の結果、標準的な試料を基にして各種とりみ溶液がロートから流下する時間を計測することで、大まかな粘度に分類することが出来た。